

受 験 番 号					

氏 名	

2018(平成30)年度  
放送大学大学院修士課程  
文化科学研究科 文化科学専攻  
**人文学プログラム**  
筆記試験問題

試験日：2017(平成29)年10月7日(土)

試験時間：9時30分～11時30分

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この試験問題冊子は開かないでください。
2. 解答には、黒鉛筆かシャープペンシルを使用してください。
3. 配付されるものは、「試験問題冊子1冊」、「解答用紙5枚」及び「下書き用紙5枚」です。追加配付はしません。
4. 試験開始の合図の後、試験問題冊子を確認してください。試験問題冊子は、表紙、白紙、問題(5頁)の順に綴じられています。試験問題冊子を綴じているホッチキス針をはずしたり、中身を破り取ったりしてはいけません。試験問題冊子または解答用紙に落丁・過不足のある場合、あるいは印刷が不鮮明な場合には、手を挙げて試験監督員の指示に従ってください。
5. 試験問題冊子の所定欄に、受験番号及び氏名を記入してください。
6. 解答用紙は、「大問題(試験問題冊子に第1問、第2問…と表示されています。)」ごとに使用し、解答用紙の所定欄に、プログラム名、氏名、受験番号並びに「大問題」番号及び「大問題」ごとに何枚目であるかを、解答用紙別に必ず記入してください。  
小問題及び選択問題を解答する際の番号の記入箇所は、解答用紙のマス目の外としてください。
7. 解答用紙1枚につき、800字まで記入することができます。解答用紙5枚のうち、人文学プログラムは3枚以内で解答してください。指定された字数を超えないよう、注意して解答してください。
8. 試験問題冊子、解答用紙及び下書き用紙を持ち帰ってはいけません。
9. 試験問題冊子は試験終了後に回収します。試験問題冊子に解答を記入しても採点の対象にはなりませんので、必ず解答用紙に解答を記入してください。
10. 試験時間は2時間です。試験開始後40分を経過した後は、試験問題冊子及び解答用紙を試験監督員に提出した上で退室してもかまいません。ただし、試験終了5分前以降は退室できません。

## 人文学プログラム筆記試験問題

次の各問に答えなさい。

なお、解答用紙は各問（大問題）ごとに使用し、解答用紙の所定欄に問題番号を必ず記入すること。

### 第1問

以下の①～⑤の設問のうち、あなたの研究題目に最も近い分野の設問を一つ選んで、その設問に対して解答しなさい。なお、選択した設問の番号①～⑤を、解答用紙の冒頭に明記すること。

#### ①〔哲学・思想・宗教〕

哲学・思想・宗教において、あなたが最も関心を持っているテーマの概略を述べた上で、どうしてそれを問題にしようと思うようになったのか、これからどのように深めていきたいのか、それを研究することにはどのような意義があると考えているのか、1000字以上1200字以内で述べなさい。

#### ②〔美学・芸術論〕

あなたが修士論文で研究しようと考えている芸術作品や美学的・芸術学的テーマについて、その学問的重要性を、論理的に、1000字以上1200字以内で述べなさい。

#### ③〔歴史学〕

歴史における国家と社会の関係について、自らの研究テーマを事例として挙げながら、1000字以上1200字以内で述べなさい。

#### ④〔文学・言語文化〕

文学、言語学、言語文化、およびその関連領域において、あなたが最も関心を抱いているテーマを一つ選び、

- (1) いかにしてそのテーマに惹かれるようになったのか、
- (2) それについてこれまで何を学び、考えてきたのか、
- (3) これからどのように研究を深めていきたいと考えているか、

合わせて1000字以上1200字以内で述べなさい。

なお、「テーマ」は、なんらかの現象でも理論でも、作家でも作品でもかまいません。

#### ⑤〔人類学・比較文化〕

下の語群の中から三つ以上の語を選び、それらを相互に関係づけ、あなたの研究テーマに沿って、または具体的な事例を挙げて、1000字以上1200字以内で論じなさい。冒頭に適切なタイトルをつけること(1行以内、但し字数に含めない)。また、選んだ語を最初に使うときに下線をつけること。

家族、ジェンダー、親族、グローバリゼーション、ローカル、狩猟採集、災害、病、シャーマニズム、技術、再分配、通過儀礼

## 第2問

問1 次の英文を読み、後に続く設問に答えなさい。

(この部分については、著作権の関係上、公開できません。)

Liza Dalby *et al.*, "Noodles and Bean Curd"  
*All-Japan: The Catalogue of Everything Japanese*  
(Quarto Marketing Ltd., 1984), pp. 102-103  
より抜粋、一部書き換え

## 設問

- (1) (a)(b) に当てはまる日本語をローマ字で書きなさい。
- (2) [ x ] の二つの空欄のどちらにも当てはまる英単語を、下の①～④の中から一つ選びなさい。
- ① enough
  - ② far
  - ③ right
  - ④ soon
- (3) 文中に下線を引いた三つの単語またはフレーズの品詞について、正しい説明を下の①～④の中から一つ選びなさい。
- ① chopstick は名詞、al dente は形容詞句、al burro は副詞句である。
  - ② chopstick は名詞、al dente も al burro も副詞句である。
  - ③ chopstick は動詞、al dente は形容詞句、al burro は副詞句である。
  - ④ chopstick は動詞、al dente も al burro も副詞句である。

問2 次の英文を読み、後に続く設問に答えなさい。

Early pioneers in the study of Indian music were relatively few in number. In the absence of any wide-spread appreciation of Indian music on its own merits, it was inevitable that stereotypes and misunderstandings would emerge among the general public. One common misperception about Indian musical practice involves instruments. For instance, although Native Americans use a wide variety of musical instruments, the general impression is that there is but one: the tom-tom. The word itself is not derived from any North-American native language, as many assume, but is probably of Hindustani origin and has been used deprecatingly by English speakers worldwide to describe drums of any “uncivilized” people that produce a “monotonous” sound. The stereotypical tom-tom is usually a commercially made child’s toy with two rubber heads laced together. While some tribes use drums resembling these (but with animal-skin heads), others rely on a wide variety of different drum types. They vary from tribe to tribe and even within a single tribe, depending upon their use.

Another almost universal misconception is that the standard Indian drum accompaniment consists of a pattern of four beats of equal duration, with the first heavily accented: BOOM-boom-boom-boom, BOOM-boom-boom-boom. This rhythmic pattern has been so thoroughly exploited by the media that it has become a cliché. The mere introduction of it in the musical score of a Western film signals that an Indian ambush is imminent. The pattern has also been

used to impart an “Indian” flavor to radio and television commercials and to popular team fight songs heard at athletic events. The rhythm invariably appears in children’s piano pieces wherever the word *Indian* is found in the title.

While this particular percussion pattern is not totally absent from Native American music, it is one of the least typical. Native Americans even joke among themselves about this stereotypical beat; it is said that Indians across the continent use the pattern as a sort of drum message to signal the arrival of Europeans, the drum warning, “WHITE-man-com-ing, WHITE-man-com-ing.”

Jeff Todd Titan, "Introduction to *American Musical Tradition*"  
J. T. Titan and B. Carlin eds. *American Musical Tradition, Vol. 1*  
(Schirmer Reference and Gale Group, 2002), pp. 5-6  
より抜粋

### 設問

次の選択肢①～⑥のうち、上の原文に反する内容のものはどれか、二つ選びなさい。

- ① 北米先住民の音楽に対して一般人が無理解だった理由に、専門の研究者が少なかったことが挙げられる。
- ② 北米先住民の音楽に対する一般人の誤解には、かつてのメディアが単純なステレオタイプにしてしまった影響が大きい。
- ③ tom-tom という語は、北米先住民の一部族の言葉から英語に入ったものである。
- ④ 子供向けのピアノ曲として採り入れられたのは、真の北米先住民音楽である。
- ⑤ 北米先住民の音楽では多種多様なドラムが使われ、リズム・パターンも複雑であり、部族による違いも大きい。
- ⑥ 先住民達は、西部劇の中でインディアンが待ち伏せていることを表現するステレオタイプのな〈強弱弱弱〉のビートを、「白人が来るぞ！」(WHITE-man-com-ing) というメッセージを伝えるものだと言ってからかったりする。